

第9回日本循環制御医学会開催のご挨拶

第9回日本循環制御医学会

会長 小林建一

ここに第9回日本循環制御医学会を金沢市文化ホールで開催する運びとなりました。会場として、大変立派な文化ホールを確保できたことは、村上誠一教授のご配慮によるものであり、ここにお礼を申し上げる次第です。

先のご案内でも申し上げましたが、昨年の本学会は国際心臓血管麻酔学シンポジウムとして開催されたこともあり、通常の形式としては今回が学会の学術集会として最初となります。

従来の本会は、パネルディスカッション、シンポジウムの形式が多かったようであります。研究会も学会も学術集会としては、基本的に変わるものではありません。しかし、今回は学会ということもあって、一般口演とシンポジウムの二本立で行うこととしました。

シンポジウムのテーマはご覧のように、「輸血、輸液をめぐる問題」と「麻酔と肝・腎循環」であります。輸血、輸液は麻酔科医の臨床にとって古くから身近な問題であります。常に新しい話題を提供してくれます。10年の物差しを当てますと、その変り方に驚かされることも少なくありません。臨床の場での治療にはある程度の幅があるのは当然にしても、理屈の上であるべきベストは一つであるはずで、この辺を見直そうとするのが

このシンポの目的です。幸い高折教授のご盡力で適任の4名の演者にお話しいただけることになりました。

麻酔と臓器循環は麻酔科医の興味を引く問題と考えます。しかし、肝・腎循環とくに肝循環についての知見は多いとはいえません。ハロゲン化麻酔薬代謝における肝低酸素と還元系代謝系路の賦活の例をみるまでもなく、代謝面からも肝循環は興味あるテーマであります。更に、最近の広汎肝切除手術の普及、来るべき肝移植手術の実施を考えると、麻酔管理上からも、今後われわれが取り組むべき問題と考えます。演題の内容からも大方の関心は肝循環に集中していたようであります。

当初は一般演題のなかからシンポを編成したいと考えておりましたが、演題の集まりへの危惧もあり、シンポの一つは予め演者に依頼する形式といたしました。しかし予想外に応募演題が多く、時間的にもシンポを組むことができず、一般口演とさせていただいた演題も少なくありません。学会としては喜ばしいことではありますが、会長として不手際をお詫びする次第であります。

限られた時間ですが、会員の皆様の活発な討論により盛会のうちに終了することを願っております。